

『完成させてくださる』 (ピリピ人への手紙 1章 1-8節) 2020.7.26.

I ピリピにいる聖徒たち

①ピリピ教会の始まり(1-2)

ピリピはエーゲ海からほど近いマケドニアの主要都市です。ここにパウロ一行が滞在した数日間に、紫布の商人リディアや看守家族が主イエス・キリストを信じ、教会の基礎となりました(使徒 16:12-40)。彼はこの教会に主の愛の心をもってこの手紙を書きました(8)

②最初の日から今日まで(3-5)

ピリピにいる信者に思いを馳せる度に、パウロは感謝しています。彼らが福音を伝えることにパウロと同じ心で携わってきたからです。それはリディアや看守が主を信じた日から続く特色・姿勢でした。私たちには喜びをもって祈り、感謝できることがあるでしょうか。

③良い働きを始められた方(6)

ピリピはパウロがヨーロッパで最初に伝道した町ですが、彼の計画ではありません。彼が聖霊の導きに従ったからピリピに導かれ(使徒 16:6-12)、出会った人々に福音を届けました。これが端緒となり、多くの人が主を信じ、ピリピ教会が形成されました。

II とともに恵みにあずかる

①良い働きの陰で

回心者が興されたものの、ピリピでのパウロの働きは迫害・投獄、町からの追放で数日で中断させられます。そして手紙執筆時には、キリストを宣べ伝えたがゆえにパウロは投獄されていました。主の良い働きは挫折したのでしょうか。

②とともに福音に携わる(5、7)

ピリピ教会はパウロがピリピを離れた後も交流し、彼の宣教活動を様々な形で支援してきました(4:15-16)。彼が囚われの身となっても、なおも物心両面で支えていました。ピリピ教会も反対者たちに脅かされる中、福音宣教の働きを果敢に推し進めていました(14)。

③キリストのために受けた恵み

物事が計画通りうまく進展しているなら、感謝できます。反対が巻き起こり、事態が悪化し、予期せぬ方向に向かうとき、私たちはどうするでしょう。キリストのために恵みとして受けたのは、キリストを信じるだけでなく、キリストのために苦しむことでもあるのです(29)。

III 完成させてくださる主(5)

①キリスト・イエスの日

この手紙は送り手も受取側も厳しい状況にあります。その内容は「喜び」をテーマにした明るいものです。罪と死に打ち勝たれたキリスト・イエスの福音が苦境さえも喜びに変換します。今で判断せず、ゴールからこの状況を見ることをパウロがしていたからです。

②完成させてくださる

主にあって為した福音の働きは空しく終わることはありません。私たち個人の救いの御業も宣教の働きも、始められた方は完成まで導かれます。私たちにできないことはお委ねすればしていただきますが、できることは私たちに「させて」くださいます。

③確信をもって

主が働きを完成させてくださると約束されたなら、その過程で紆余曲折があろうとも恐れることはありません。パウロの今日までの歩みはその証しでした。同じ主がピリピ教会にも、私たちに完成まで導かれると彼は確信しています。私たちはどうでしょうか。

<おわりに> パウロが語っている喜びは、から元気でも幻想でもありません。イエスを信じる者に完成させてくださる神がともにおられます。だから環境・状況にとらわれない喜びが常にあります。(H.M.)